

特集

2017年

# 飛躍

初代 徳田八十吉  
「闘鶏図平鉢」

特集に関する問い合わせ

広報秘書課 ☎24・8016

新年、明けましておめでとうございます。

皆さんにとって、素晴らしい一年になることをお祈りしています。

今年の干支は酉です。酉の「にわとり」は太陽が昇るときに必ず

鳴くため、その性格は正確で几帳面、頭の回転が速いとされています。

また、干支ではサル(申)とイヌ(戌)の間に入り、犬猿の仲を「とり」持ったという言い伝えもあります。

今回の特集では、酉の賢い性格や縁を取り持つ習性に

ちなんで、市民の皆さんの「学びの手伝い」や「ご縁をつなぐ」活動をしている方々を紹介いたします。

## 科学の夢を学ぶ

### ひとつものづくり科学館 サイエンス・クルー

科学大好きっ子が  
続々誕生!

ひとつものづくり科学館では、展示解説から実験工作、受付案内などで協力いただけるクルーを募集しています。高校生以上で、月2回以上参加できる人であれば大歓迎。現在のクルーは約60人、仕事や子育ての合間に参加し、平日は2〜4人体制で企画準備のお手伝いをしています。

「レゴプログラミングの開発と教室のサポートを担当しています。女の子もぜひ参加して欲しいです」と話すのはプログラマーの経験を持つ小林真由美さん。子供達に楽しかったと



▲サイエンス・クルーの皆さん



▲ワクワクドキドキがいっぱいの科学工作教室

言われることが最高にやりがいを感じる瞬間なんだとか。

ものづくりが好きで、あつという間に小道具を作ってしまう木戸口保之さんは「自分も楽しみなから参加できること。それが長続きするコツですね。クルーの中には元教師、地質学が好きの人、設計士、ピアノの先生など、多種多様な特技を持った人がいます。自分も船乗りでした。みんな、子供が大好きな人達です」と語ってくれました。

クルーの活動に興味を持った人は、ぜひお問い合わせください。  
問い合わせ ひとつものづくり科学館 ☎22・8610

## ふるさとの素晴らしさを学ぶ

### NPO法人ふるさと小松検定(小松商業高校の皆さん)

大好きな小松を  
もっと知ろう!

小松のご当地検定といえば「ふるさと小松検定」ですが、実は平成17年度に小松商業高校の生徒の皆さんが課題研究として取り組んだことがきっかけで始まりました。平成20年8月にNPO法人が設立されて以来、初級・中級・上級コースに多くの人が受験しています。

更に平成28年度は、曳山子供歌舞伎に関する「メモリアルコース(曳山子供歌舞伎編)」が特別に開設され、昨年は全体で市内外から約350人が受験しました。

平成28年度に問題作成を担当した



▲問題作成を担当した小松商業高校生の皆さん



▲様々な角度から魅力を掘り下げて出題

3年生の斉藤亜美さんは「問題作成を通じて、小松の魅力を学ぶことができました。自分達の住むふるさとを誇りに思うようになりました」と検定の意義を教えてくださいました。

同じ3年生の川端優果さんも「小松の良さを多くの人に伝えられる活動です。しっかりと後輩に引き継いでいきます」と話してくれました。

ふるさと小松検定ホームページでは、教科書や問題集などのデータをご覧いただけます。検定は毎年11月頃に実施します。ふるさと小松を学び、魅力を再発見したい人は、ぜひ挑戦してください。

問い合わせ NPO法人ふるさと小松検定(小松商工会議所内) ☎21・3121

# 地域の輪と健康をつなぐ 小松市健脚推進ボランティアの会

地域ぐるみで  
楽しく介護予防

小松市健脚推進ボランティアの会は、市内180カ所余りの公民館などで開催される「いきいきサロン」で、こまごま健脚体操の指導やレクリエーションのお手伝いなどを行っています。会員数は現在477人。

サロンに参加する高齢者の皆さんが安全に楽しく体を動かせるよう、会員が声を掛けながらストレッチや筋力体操を行います。踵やつま先を上げたり、ゆっくりと足の筋肉を伸ばしたりすることは、柔軟性を高め、筋力低下の予防にも効果があります。一人ではなかなか取り組めない運



▲はつらつと体を動かす体操(西軽海町4丁目)



▲「健康寿命をのばそう!アワード」授賞式

動も、町内の皆さんと和気あいあいとした雰囲気の中で続けていくことで、閉じこもりや認知症の予防にもつながります。

昨年11月には、これまでの活動が評価され、厚生労働省主催「第5回健康寿命をのばそう!アワード」の団体部門で優良賞に選ばれました。

今年、市が新しく制作した「こまごまはつらつ脳トレ体操」を各地域で実践していきます。これは脳を刺激する指先や全身運動が盛り込まれている体操です。皆さんもぜひ、チャレンジしてください。

問い合わせ 小松市健脚推進ボランティアの会事務局(長寿介護課内)  
☎24・8168

# 福祉の心で絆をつなぐ 小松市点訳友の会

点訳で伝わる  
温かいぬくもり

小松市点訳友の会は、昭和60年に発足した点訳ボランティア団体です。視覚障がい者にとっては、点字は大切なコミュニケーション手段の一つであり、その普及が望まれています。その思いにこたえるために、小松市点訳友の会では、各種団体からの依頼を元に、書籍や新聞などを点字に訳す作業を行っています。

会員数は現在60人。毎年5月11月に、小松市社会福祉協議会が開催する点訳講習会を修了したメンバーで構成しています。会長を務める村本ゆりさんは「視



▲小松市点訳友の会の皆さん



▲点字を書く際は、細心の注意を払って正確に

覚に障がいのある人にとって点字は大切なもの。責任を持って慎重に作業しています」と話してくれました。点訳で一番多い作業は、図書館に寄贈する点訳図書製作です。一冊の本を点訳するまでに校正を3回行っているため、長編になると完成までに3年かかることもあります。

会員の松永京子さんは「手間が掛かりますが、入念な校正は欠かせません。手に取った人に喜んでほしいです」と語ってくれました。

こうして丁寧に制作された点訳を見ると、込められた温かい思いが伝わってきます。

問い合わせ 小松市社会福祉協議会  
☎22・3354

# 女性の視点で社会をつなぐ 小松市校下女性協議会

みんなが安心して  
暮らせる社会へ

小松市校下女性協議会は、昭和21年の発足以来、市全域の女性会・婦人会による組織としてネットワークの輪を広げてきました。現在は3800人以上の会員が所属しています。常に女性の目線に立った地域づくりを進めながら、子供の健全育成や男女共同参画の推進、防災・環境・福祉施策の充実に努めています。

創立70年を迎えた平成28年度は、ごみ減量について重点的に取り組んでいます。環境委員会の委員長を務める木本聡子さんは「ごみ問題は毎日の暮らしに関わる重要なこと。家庭での取り組みは小さな活動でも、



▲小松市校下女性協議会の皆さん



▲ごみ減量・リサイクル推進を呼び掛ける啓発運動

地域全体で捉えれば非常に大きな影響をもたらします。女性ならではの気付きと配慮があつてこそ、できることがたくさんあります」と語ってくれました。

会長を務める千歩真理子さんは「これからも女性の力を結集して、様々な問題点に真剣に取り組んでいきます」と抱負を語ってくれました。

こうした活動が功を奏したことで、ごみダイエツト袋制度を導入した昨年10月以降の市全域ごみ排出量は、前年に比べて大幅に削減しました。これからも住みよいまちを目指した活動が期待されています。

問い合わせ 小松市校下女性協議会事務局  
☎24・3268

# 本の魅力で夢をつなぐ 小・中学校 図書ボランティア

地域で育てよう!  
子供の豊かな想像力

読書は子供の言葉、感性、表現力、創造力を刺激します。子供の読書活動を応援するために、市では小・中学校に図書館司書を配置しています。加えて、市内の小・中学校では図書ボランティアを募集しており、現在は市全域で約300人が、子供への読み聞かせや図書室の整備などのお手伝いをしています。

図書ボランティアの活動は、子供に本の楽しさを伝えるもので、特別な要件や資格は不要です。登録は、それぞれの学校で受け付けています。苗代小学校で4年間、ボランティア



▲季節に合わせて、図書室内を飾り付ける皆さん(苗代小学校)

アをしている大津真由美さんは「読み聞かせは子供の想像力を育む大切な活動です。子供に喜んでもらえるとうれしい気持ちになるし、やりがいがあります」と語ってくれました。

同じく、稚松小学校で2年間、ボランティアをしている大屋美保さんは「紙芝居のように絵本を大きなサイズに作り直したり、寸劇を取り入れたりして読み聞かせをすることもありますが」と語ってくれました。ちょっとした仕掛けやアイデアを加えた活動も、様々な学校で行われています。

ボランティアの募集状況は、学校によって異なります。活動に興味がある人は、各小・中学校にお問い合わせください。



▲子供達が楽しみにしている読み聞かせの様子(稚松小学校)